

労働者協同組合法  
成立記念作品

人は人のために働いて  
支え合い、  
人のために死ぬ。  
結局はそれ以上でも  
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

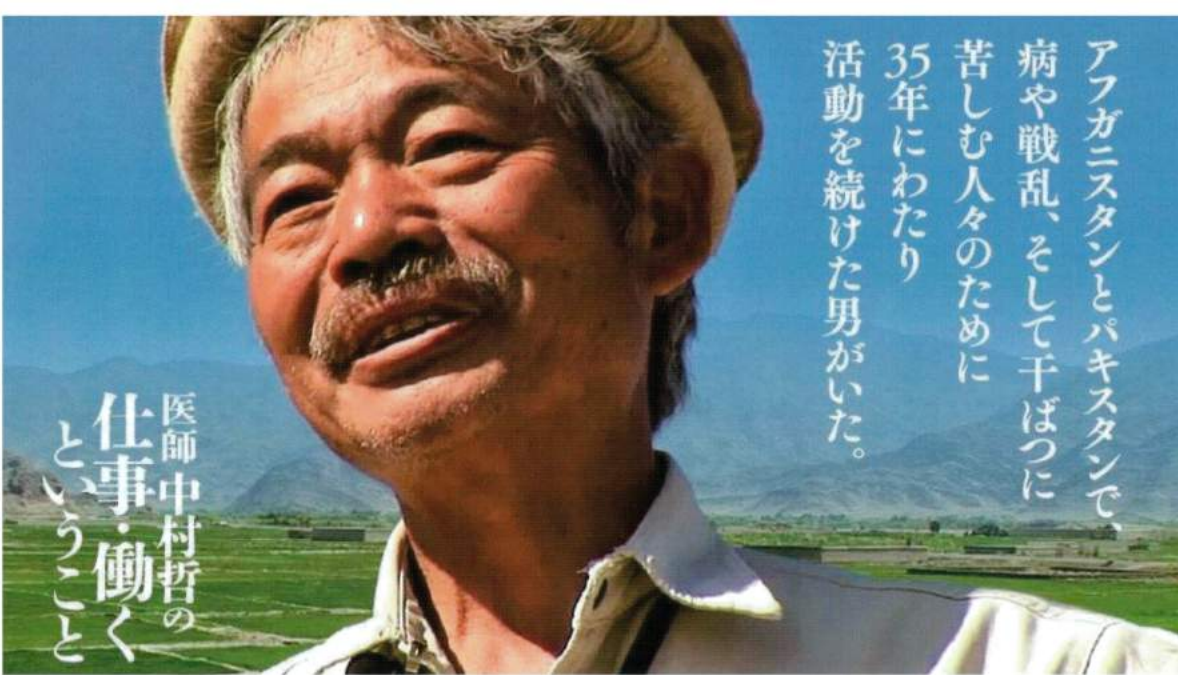
11月5日(日) 13時30分～東京情報大学・メディアホール  
中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

●先着250名 13時00分開場 千葉都市モノレール千城台駅～バス10分



# 医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也  
写真映像提供◎シェアワール会/PM S  
企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団  
一般社団法人日本社会連帯機構  
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の  
仕事・働く  
ということ

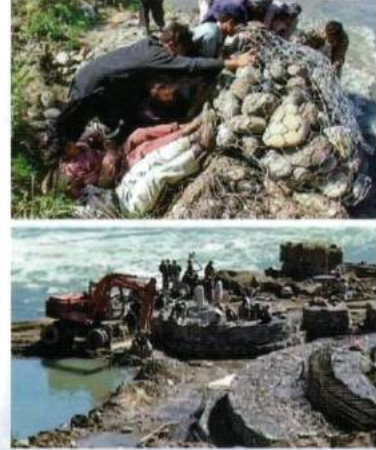
アフガニスタンとパキスタンで、  
病や戦乱、そして干ばつに  
苦しむ人々のために  
35年にわたり  
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。  
親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。  
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」  
上野千鶴子氏 (社会学者、東京大学名誉教授)



●11月5日(日)東京情報大学・メディアホール(千代台駅バス10分) 13時30分～上映会  
\*申込制先着 250名 当日若葉区民祭あり・上映会は雨天時も開催 お問い合わせは 043-306-7514  
30分前より受付/開場 参加費:一般500円(大学生・障がい者、高校生以下無料)  
全上映(47分)後 ミニシンポジウム「中村哲医師とともに歩むまちづくり」

<シンポジスト>

東京情報大学看護学部 公衆衛生看護学教授/ヘルスケア実践研究センターセンター長 金子仁子  
一般社団法人日本社会連帯機構 専務理事 藤田徹(本作品企画者)



申込 QR コード

\*\*\*\*【申込方法】下記にご記入し FAX(043-306-7518)もしくはQRコード読み取りでお申込みください\*\*\*\*

お名前	(年代 代)	所属・お住まいの地域	
電話番号		メールアドレス	

FAX(03-5967-1266)もしくはQRコード読み取りでの申込みができない方の申込 (問) ☎03-5967-1248  
主催: 医師中村哲の仕事・働くということ上映実行委員会  
共催: (一社)日本社会連帯機構 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団東関東事業本部  
東京情報大学